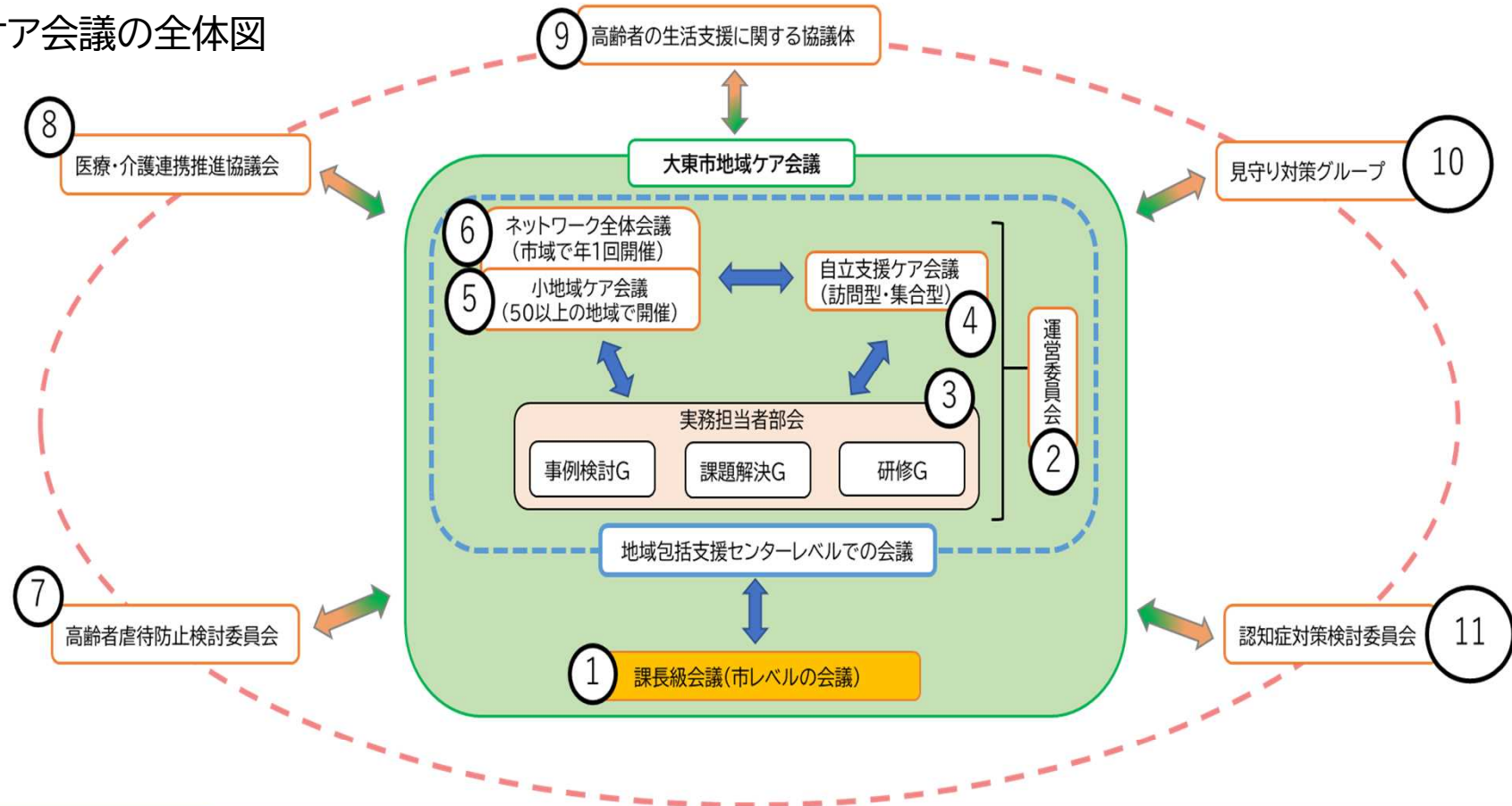


令和7年度
大東市地域ケア会議課長級会議 資料

令和7年度 大東市地域ケア会議 実務担当者部会
地域課題に関する提案及び報告に関する要約

- (1)事例検討グループ
- (2)研修グループ
- (3)課題解決グループ「BCP(事業継続計画)」
- (4)課題解決グループ「得意なコト・モノ ①グループ」
- (5)課題解決グループ「得意なコト・モノ ②グループ」

大東市地域ケア会議の全体図



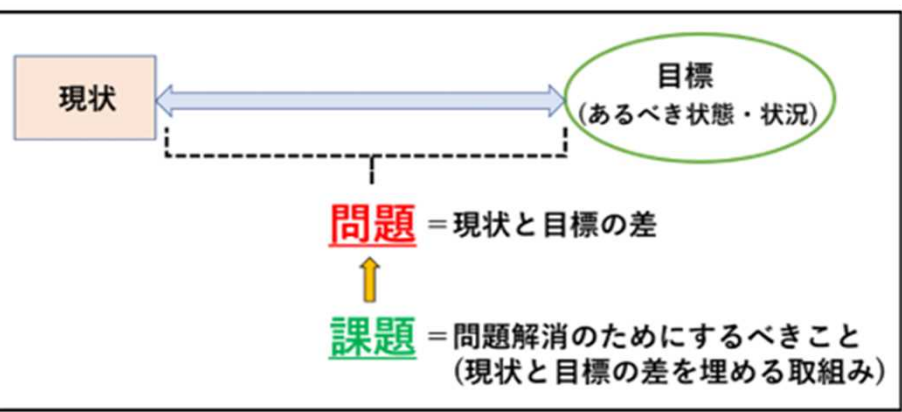
地域ケア会議 機能		小地域ケア会議	ネットワーク全体会議	自立支援事例検討会（訪問型・集合型）	実務担当者部会	課長級会議
1	個別課題解決	○		○	○	
2	地域課題発見	○	○	○	○	
3	ネットワーク構築	○	○	○	○	
4	地域づくり・資源開発	○			○	
5	政策形成				○	○

実務担当者部会

小地域ケア会議等から抽出された地域で発生している問題の緩和・解消を目的とした取り組みの検討及び情報共有・支援機関のネットワークづくりを行う。

- ・地域で発生している問題
- ・問題の原因と現状の分析
- ・問題解消等のための着目点
- ・取り組みの検討(目的・対象・内容・仕組み)
- ・各グループの取り組みの共有

【参考:問題と課題のイメージ図】



課長級会議

実務担当者部会で検討した課題に対する解決等に向けた取り組みの提案に関する報告を行い、実行に向けた検討・決定を行う。他協議体、地域のネットワークに関する報告も実施。

報告・提案・共有

【委員構成】

大阪府四條畷保健所 企画調整課
大東市社会福祉協議会
大東市保健医療部 地域保健課
大東市福祉・子ども部 福祉政策課
大東市福祉・子ども部 障害福祉課
大東市保健医療部 高齢介護室

【事務局】

高齢介護室高齢支援グループ

事例検討グループ (報告資料P8～P10)

1. 選択した地域の問題・課題＝『多機関の適切な協同と連携』

世帯・地域の複雑な問題解決には専門職間の連携が不可欠だが、現状は相談先不明瞭などで連携不足。この改善に向け、専門職がお互いの役割や事例へのアプローチの違いを理解し連携を強化するため、事例検討会を企画・開催する。

2. 事例検討会の概要

【日時】令和7年10月21日（火）9時30分～11時30分

【場所】市民会館キラリエホールホール②

【対象】地域ケア会議参加機関

【内容】

(1) 検討事例「認知症にアルコール依存症を併発した事例」

(2) グループワーク

ワーク①：事例に対して、専門職としてどのように関わることができるか

ワーク②：過去に関わったことがある認知症事例内容を共有

(3) 事例提供者から実際の支援内容を共有

(4) ①～③の各機関から制度の情報提供と当該事例を想定した対応を紹介

①「日常生活自立支援事業」 大東市社会福祉協議会

②「居宅療養管理指導」 阪神調剤薬局

③「地域リハビリテーション活動支援事業」 大東市地域包括支援センター



3. 上記1と2を通じて検討された地域の問題を解消・緩和する提案等

- ・専門職、事業所からの地域ケア会議参加者の増加（地域ケア会議の意義の発信）。
- ・参加者が増加し、より多くの専門職と顔が見える関係ができることでチーム作りの選択肢が広げることができる。
また、地域ケア会議内で事例検討を行う際にもより多くの事例に触れることができる。

4. 提案内容を受けて

提案の内容にあったとおり、「地域ケア会議を開催する意義」を市・包括から市の内外に継続的に発信。発信する際には情報を明確化し、下記の様々立場の意義の視点に沿って実施。

参加者の視点

- ・**多職種・多機関連携の強化**＝多分野の専門職や機関との顔が見える関係の構築によって支援連携がスムーズに。
- ・**個別ケース支援の多角化**＝他分野の専門職から多角的な視点や情報、解決策を得られ、支援の幅が広がる。
- ・**地域課題の共有と協働**＝地域課題を認識し、自機関・団体の貢献機会の検討や共同事業や連携の創出に繋がる。
- ・**社会資源の発見と活用**＝他機関が提供するサービスや活動内容を把握し、支援の選択肢を増やす機会。
- ・**専門性の向上と自己研鑽**＝他分野の知識・実践に触れ、自身の専門性を深め、新たな知見や視点を獲得する機会

自治体の視点

- ・地域包括ケアシステムの推進
- ・地域課題の把握と政策形成
- ・多機関連携の促進と調整
- ・専門職の育成・支援

包括の視点

- ・個別ケース支援の質の向上
- ・地域課題の明確化と地域づくりへの貢献
- ・多職種連携の強化とネットワーク構築
- ・自らの専門性向上。

1. 選択した地域の問題・課題＝『空き家問題』

高齢化・認知症・相続未整理などにより空き家が増加。

特に管理不全の「その他空き家」が防災・防犯リスクとなり、相談の遅れや導線不明確さが課題。解消には、空き家化の早期把握、相談ルート明確化、事前対策の普及啓発、多分野専門職連携、そして地域資源としての利活用促進が不可欠となっている。



【参考】総務省の「住宅・土地統計調査」における空き家の4カテゴリー

①売却用の住宅

②賃貸用の住宅

③二次的住宅（別荘のように時々利用される住宅など）

④**その他の住宅**：①から③に該当しない空き家。長期不在の住宅や取り壊し予定の住宅などが含まれ、管理不全になりやすく、近年増加傾向にあることが社会問題となっている。

「現状とリスク」・「高齢化や認知症による管理困難の問題」・「事前対策」・「空き家の活用可能性」の理解を深める研修会を企画・開催。早期対応の重要性を共有し、住民・支援者・関係機関が連携して空き家問題に取り組む意識を醸成する。

2. 研修会の概要

【日時】令和7年11月11日(火)9時30分～11時30分

【場所】市民会館キラリエホール②

【参加人数】地域ケア会議参加者31人、つながる未来サポート関係者7人

【内容】(1)講義「高齢化と空き家問題～事前にできる対策～」
一般社団法人つながる未来サポート理事 富田泰富氏

▶講義の概要

- ・ 空き家の現状（全国・大東市の動向）
- ・ 空き家が生じる要因（相続、認知症、家族の遠方居住等）・管理不全空き家のリスク、固定資産税増額制度
- ・ 認知症と資産凍結の課題、家族信託など事前対策
- ・ 空き家管理・活用の選択肢

(2)グループワーク

- ・ テーマ：空き家問題に対して「①：仕組みとしてできること（制度・行政・組織的な取り組み）」、「②：自分にできること（専門職・地域住民・支援者としてのアクション）」を整理。
- ・ 形式：6グループ、ポストイットを用いたKJ法により実施。
- ・ 目的：講義内容を踏まえ、地域ケア実務者としての具体的アクションを考える。
- ・ 個人の支援行動と、地域・制度レベルでの仕組みづくりの両面から対策を検討する。



富田 泰富 Tomita Yasuhisa
『幸せを絆ぐ相続アドバイザー』
一般社団法人つながる未来サポート協会 理事
1977年1月3日生 大東市出身

【資格】
相続診断士、不動産資産相談士3級
子育て診断士、2級建築施工管理技士、派遣元責任者

【所属会社】
富田建設株式会社 代表取締役（総合建設業・相続相談事業・不動産事業）
株式会社ブラサーモ 取締役（電気式床暖房製造販売）
ピーエス・プラス株式会社 相談役（介護施設の運営）

【所属団体】
宇宙開発協同組合SOHLA 監事

【趣味】
釣り、茶道、俳句、料理、音楽



3. 上記1と2を通じて検討された地域の問題を解消・緩和する提案等

- (1)空き家化リスクを早期に把握するため、支援者からの情報を受け止める仕組みを市として整備する。
- (2)市民が迷わず相談できるよう、相談窓口や支援フローを統一的に示した「相談導線」を構築する。
- (3)相続・認知症・家族信託など、空き家になる前に必要な事前対策を体系的に発信する仕組みを検討する。
- (4)不動産・司法・建築・福祉が連携して支援できるワンストップ型体制を推進する。
- (5)空き家を地域資源として捉え、利活用を促す枠組みの整備を検討する。

4. 提案内容を受けて、高齢支援Gと都市政策課で情報共有

▶上記(1)について

令和8年度に空き家の実態調査(水道閉栓1年経過)を実施予定。悪い状態である空き家には市が対策を検討。
令和8年度に大東市空家対策等計画(5年)を見直し時期。実施して見えてきた内容に応じて対策を検討。

▶上記(1)(2)・(3)・(4)について

大東市空家相談窓口連携事業 HP:<https://www.city.daito.lg.jp/soshiki/66/66330.html>

空き家対策は公民連携が不可欠。民間の強みを活かした空家等対策の取組や活動する法人を募集し、市と連携する団体として認定。

【事業内容】

- ・「空き家相談のワンストップ相談窓口」
- ・「空家等の利活用に向けた所有者への伴走支援」
- ・「実施状況等の報告及び空家施策の提案」



▶上記(5)について

各種補助金制度＝ 空家流通促進補助制度（リフォーム・購入）、老朽危険空家等除却補助制度など

参考:大東市空家相談窓口連携事業ホームページ

認定連携事業者

- ①一般社団法人
既存住宅・空家プロデュース協会
- ②NPO法人 空家空室再生ネットワーク
- ③公益社団法人 全日本不動産協会大阪府本部
- ④一般社団法人 とちかつ
- ⑤一般社団法人 つながる未来サポート協会

個別相談会

令和8年1月23日(金曜日)	一般社団法人 とちかつ
令和8年2月12日(木曜日)	公益社団法人 全日本不動産協会大阪府本部
令和8年2月27日(金曜日)	NPO法人 空家空室再生ネットワーク
令和8年3月12日(木曜日)	一般社団法人 つながる未来サポート協会
令和8年3月27日(金曜日)	一般社団法人 既存住宅・空家プロデュース協会

- ・ 無料でご相談可。
- ・ 1日4組まで、1組45分以内です。(13時00分～13時45分、13時45分～14時30分、14時30分～15時15分、15時15分～16時00分)
- ・ 相談員は各認定事業者に所属する専門家(司法書士、宅地建物取引士、建築士等)。
- ・ 相談場所は市役所内の市民相談室もしくは会議室。
- ・ 事前にお電話(072-870-0483)で都市政策課にご予約。

課題解決グループ/「BCP(事業継続計画)」(報告資料P13～P15)

1. 選択した地域の問題・課題＝「BCP(事業継続計画)」

各機関が策定しているBCPが実際の災害時に実効性があるのか不明。

地域の実情に応じたBCPのマニュアルの作成を目指し、本グループの参加機関(居宅介護支、訪問介護、訪問看護、施設、薬局、CSW、行政)において策定されているBCPを持ち寄って情報共有と検討を実施。

2. 実施内容

- ・当該グループの参加機関だけでも様々な「違い」があることを共有。
- ・特性や条件の違いを考慮せずに画一的なマニュアルを作成しても、実際の災害時に機能しない可能性が高いことや、各事業所の状況に応じたカスタマイズや、共通のフレームワークを基にした個別具体策の盛り込みが不可欠であるとの見解に至り、作成困難と判断。

「違い」の例

- ・サービス形態、事業内容の違い＝訪問介護・施設・通所介護・入所施設・医療ケア施設
- ・利用者の特性・要配慮度の違い＝身体・認知能力、医療的ニーズ
- ・施設の立地・構造・規模の違い＝立地環境、施設構造、事業規模
- ・職員体制・リソースの違い＝職員数、昼夜勤務体制、医療職配置、訓練経験、財政基盤、地域連携体制

「違い」を認識した後、参加機関のBCPの内容を確認しながら、策定・運用に関する現状と課題を整理し、今後の実効性あるBCP推進に向けた検討材料とすることを目的とする内容に変更。

3. 上記1と2を通じて検討された地域の問題を解消・緩和する提案等

個々の事業所で実効性のあるBCPを策定していくために、災害対策の知識やBCPの基礎理解が必要。
大東市の地域特性を踏まえて水害を想定したBCPについての研修または事例検討を提案したい。また、事前アンケート等を地域ケア会議の参加機関に実施し、BCP作成における課題の抽出と集約を行う。

4. 提案内容を受けて

・令和8年度の研修グループの実施テーマを「災害」に関するものとする。

【研修を行うにあたっての留意点】

- ①専門家を講師として招聘・・・専門的かつ実践的な知見を提供
- ②大東市固有の情報活用・・・リスクを具体的にイメージ
- ③内容調整・・・事前アンケートの結果踏まえた研修内容のバランス(基礎・応用)の調整
- ④実効性向上への工夫・・・参加機関が自らのBCPに落とし込む具体的な体験
- ⑤情報共有と連携の促進・・・地域ケア会議であることを活かし、多分野の機関との情報共有と連携
- ⑥アウトプットの明確化…参加機関が持ち帰るべき具体的なアウトプットを明確化

課題解決グループ/「得意なモノ・コト①グループ」

(報告資料P15、P16)

1. 選択した地域の問題・課題＝「高齢者が気軽に参加できる、地域にある行事や教室等の参加の場がわかりづらい」

市内の施設の地域交流情報を見える化し、高齢者の『ちょっと出かけてみよう』を後押しすることで、活動や参加の機会が増えて介護予防につながる。

取り組みを行っている施設においも今後の地域交流等の目的や意義を再認識し、その必要性について考えるきっかけとする。

2. 実施内容

- ①大東市にある施設の参加自由な地域交流情報マップの作成
- ②マップ作成のための情報収集（グループメンバーが電話連絡）
- ③作成されたマップを情報として、どう高齢者へ届けていくのかの検討



3. 上記1と2を通じて検討された地域の問題を解消・緩和する提案等

- ・地域交流情報マップを基に、カレンダーを作成し各専門職のツールとしてはどうか。
- ・大東市民アプリとして、万歩計(健康管理、生存確認、居場所確認)、イベントカレンダー(地域交流)、マッチング機能(趣味友)、フードロス問題(マップと連携し廃棄される前に安く提供する仕組み)をアプリで管理できるようにしたい。
- ・生活支援コーディネーターが運営する大東チャンネルへ情報アップ

02-1 大東市民アプリ 内容

カレンダー

地域交流マップと連携することでより使いやすくする。

万歩計

健康管理、生存確認
居場所確認

フードロス問題

大東市にある店舗で廃棄される前の食料品を格安で購入することが出来る仕組みを創る。

孤立防止

アプリを使っている同じ趣味の方が近くにいと教えてくれる。

02-2 大東市施設イベントカレンダー

2026年1月カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

施設イベントカレンダー

02-4 FOOD LOSS (フードロス) FOOD WASTE(フードウェイスト) フードロス問題

・マップを共有しフードロス対策として大東市にある店舗に協力する。

・大東市の若年層、シングル世帯、子育て世帯、学生に提供される前になりに安く購入できる仕組みを作る。

・対象者は対象品を格安で購入できる。フードロス対策カードをアプリに入れることが出来る。

・フードウェイスト商品は消費期限より前にフードウェイスト期限を設ける。

例→大東市財源5割 店舗負担3割 = 2割で購入可能

500円の食品→大東市250円 店舗150円 = 100円

大東市財源→一部負担 フードウェイストとの連携 作り置きを管理できる。

店舗→廃棄での処分購入促進できる。作り置きを見える化できる。

購入者→安く購入でき、食費支出による働きすぎによる家族間の孤立の減少。

02-3 万歩計 スマートウォッチとの連携で

健康管理
見守り機能

生存確認
居場所確認
転倒察知

02-5 孤立防止

趣味友集め

・マッチング機能 AIによる利用者の生活習慣が近い方のみをマッチングする。ただ好きなだけでは無く、趣味の頻度や運動の頻度、イベント参加頻度をAIで管理することで趣味や運動も同じレベルの方と交流できる。

4. 提案内容を受けて

- ・地域ケア会議や生活支援に関する協議体の取組みにおいて、「ベンチマップ」「通いの場」がある。高齢者や支援者の利便性やの観点からできる限り媒体は増やさず集約することが望ましい。提案にもあるように、生活支援コーディネーターが運営するHPや通いの場マップに掲載。
- ・本市においても、地域活動のマッチング、ポイント制など検討中。
- ・フードロスの取組みは社会福祉協議会が情報発信

ベンチMAPをつくりませんか？
みなさんが知ってる既存のベンチを教えてください

現在ベンチMAP作成中！

あなたの情報でMAPを充実させてください！

スマイルベンチプロジェクトin大東を立ち上げるにあたり、大東市内でベンチがある場所の情報を教えてください！

LINEでカンタン共有！
ベンチのある場所を写真に撮って左記の二次元コードよりLINEで送信ください ※友だち登録をお願いします

送っていただきたいもの

- 写真
- ベンチがあるところの住所 ※わからなければ場所の特徴など
- 投稿者のお名前・連絡先

みなさまの情報をもとに「ちょっと座っていただける場所」をマップに配置し、出かけたくなるまちづくり「スマイルベンチプロジェクト」を推進してまいります

スマイルベンチプロジェクトについては裏面をご覧ください！

お申し込み・お問い合わせ

生活サポートセンター（NPO法人 住まいみまもりたい）
〒574-0072 大東市深野3-28-3 アクティブ・スクエア・大東303号
TEL 072-812-6571 FAX 072-812-6572 E-mail info@sumaisc.com
※電話受付の時間は月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

早速作成いたしました 通いの場MAP

CLICK!

QRコード



teamup 大東イベント情報

Reader 検索 設定

スケジュール 日 週 月 年 タイムライン 表 アジェンダ 一覧 Tiles

3月 2026

月	火	水	木	金	土	日	
9	23 2月 2026	24	25	26	27	28	3月 1
	14:00 60歳からの「太鼓」 10:00 システムステラ 10:00 認知症予防音楽 14:00 おとなのスマホ教	10:00 8528 (はこにわ) 13:30 新春水路学習講座	10:00 プティパロマク 10:00 デジタルお絵描き 10:30 シニア向け!スマホ 13:30 人権啓発ステップ	10:00 楽しく作ろう!なご 13:00 ホットとできるサ 13:00 癒しのリラック 14:00 能盛講談席 17:30 ぴらティス	10:00 人権講演会 14:00 シニア向けスマ 13:00 ヨガスクール	10:00 鉄道模型走行会 10:30 DICスタッフおす 13:30 香道体験	
10	2	3	4	5	6	7	8
	10:00 システムステラ	10:00 8528 (はこにわ)	10:00 デジタルお絵描き 10:30 シニア向け!スマホ	10:00 女性のコミュニケ 13:00 ホットとできるサ	10:00 三好長慶公武者 13:00 ヨガスクール	13:00 大人の陶芸入門 14:00 舞台芸術の楽し	
11	9	10					
	10:00 システムステラ	10:00 8528 (はこにわ)	三好長慶公武者行列in大東 土 7 3月 2026, 10:00 - 16:00 カレンダー: 全年齢対象 場所: 北条公園～東高野街道～野崎まいり公園～野崎参道商店街～北条公園 詳細: 問合せ 観光振興課 072-870-0442				
12	16	17	18	19	20	21	22
	10:00 システムステラ	10:00 8528 (はこにわ)	10:00 デジタルお絵描き	13:00 ホットとできるサ 13:00 癒しのリラック 17:30 ぴらティス	10:00 市民茶会 13:00 ヨガスクール 15:00 マジックショー		
13	23	24	25	26	27	28	29
	10:00 システムステラ 13:30 生活サポーター集	10:00 8528 (はこにわ)	10:00 デジタルお絵描き	13:00 ホットとできるサ 13:00 癒しのリラック 17:30 ぴらティス			
14	30	31	4月 1	2	3	4	5
	10:00 システムステラ	10:00 8528 (はこにわ)	10:00 デジタルお絵描き	13:00 ホットとできるサ 13:00 癒しのリラック 17:30 ぴらティス	13:00 ヨガスクール		

課題解決グループ/「得意なモノ・コト②グループ」

(報告資料P17)

1. 選択した地域の問題・課題＝「地域の魅力・推し」

大東市は他市にも引けを取らない魅力と良さがありながら、それを気づいていない市民が多く「良さ」を語れない方も多い。それも一つの要因となって人口減少や大東市からの移転が起きている可能性がある。

2. 実施内容

地域を知ればその魅力を再発見して、大東市への魅力の再発見や郷土愛が更に育っていき、大東市への定住定着が増すことを期待した地域に根差した街おこしの提案。

3. 上記1を通じて検討された地域の問題を解消・緩和する提案等

自治会や老人会活動への参加者減少を受けて、地域活動参加者増加の視点から地域単位での魅力を発信すること、地域活動の参加者増をめざすことを目的とする。

- ①大東市の全ての、自治区・町会・一部団体などに地域の「誇れる内容」を1つ以上・上げていただく。
- ②その内容は、地域の活動でも良いし、地域にある歴史的史跡、特徴ある個人の紹介など
- ③区長会などの会議体で内容依頼の相談を行い、資料の提供を求めていく。
- ④資料が出てきたところから、市民レポーターなどで取材する。
- ⑤大東市のHPに新たにコーナーを開設して、リンクできるようにする。
- ⑥HPに地域の部屋を新設する。
- ⑦現地を見学したり参加したりした方にスタンプラリーで全力所制覇を目指していただく。
- ⑧大東市は達成者に記念品などを提供する。

4. 提案内容を受けて

高齢支援グループと観光振興課で情報共有。提案に類似又は合致するHP運用・魅力の発信・取組みあり。
2月地域ケア会議の冒頭に観光振興課の職員から、観光マップ・スタンプラリー・三好長慶イベントの情報を発信。提案のあったグループのリーダーと意見交換を実施。

